

冬の暮らしを安全・安心に 市の支援制度を組み合わせてぜひ活用を

※詳しくは市ホームページで



除雪が困難な世帯を支援する団体に 小型除雪機や安全用具の購入費を補助

- 対象団体** 5人以上で構成する団体など
- 補助対象** ハンドガイド式小型除雪機、安全はしご、安全装備(安全帯、カラビナ、命綱など)
- 補助額** 購入費の3分の2(上限10万円)
- 補助数** 6団体(先着)
- 申** 来年1月31日(金)までに市ホームページにある申請書を地域振興戦略部 ☎39・2515へ

町内会などの除雪機燃料費補助

- 対象団体** 町内会、自主防災会など
- 対象事業** 公共的な敷地、通学路・生活道路、地域の危険箇所などで除雪機を使った作業
- 対象除雪機** 対象団体の所有、レンタル、リース
- 補助額** 作業1時間当たり500円(上限30万円)
- 申** 除雪作業前に長岡地域は道路管理課 ☎39・2232
その他の地域は各支所地域振興・市民生活課(栃尾支所は地域振興課)へ

克雪すまいづくり支援事業

- 対象地域** 長岡地域、越路地域、山古志地域、小国地域、栃尾地域、川口地域
- 対象者** 克雪住宅を新築、増改築、改良または購入する人
- 補助額** 融雪式住宅上限44万円(要援護世帯は上限55万円)、
落雪式住宅・耐雪式住宅上限33万円(要援護世帯は上限44万円)
- 問** 都市政策課 ☎39・2265

要援護世帯の雪下ろし費用を助成

- 対象** 事前に登録をした次の全てを満たす世帯
①世帯全員の市民税が均等割のみ課税または非課税(親族など他世帯の税扶養となっている場合は対象外)
②高齢者・障害者・母子世帯のいずれか
③親族から労力・経済的援助が受けられない
- 助成上限額** 屋根の除雪及びこれに伴う避難路の除雪
・・・1回 21,900円
落雪屋根からの落雪に伴う住居保全のための住居敷地内の除雪・・・ひと冬27,000円
※回数制限あり
- 申** 12月11日(水)までに地区の民生委員・児童委員へ
- 問** 福祉総務課 ☎39・2217
各支所地域振興・市民生活課(栃尾支所は市民生活課)

屋根雪下ろし 命綱固定アンカー設置を補助

- 対象** 一戸建て住宅、附属屋など
- 補助額** 工事費の2分の1(上限5万円)。
要援護世帯は工事費の3分の2(上限8万円)、
要援護世帯かつ住民税非課税世帯などは工事費の10分の9(上限10万円))
- 問** 都市政策課 ☎39・2265

こちらぜひご活用ください



アンカーの施工事例や
除雪時の安全対策が
載っています



雪かきかわら版

2024年11月

雪が降る前に、 安全な雪かき作業について考えてみませんか

近年、少子高齢化が進み、除雪の担い手不足や高齢化が深刻になっています。高齢者を中心に除雪作業中の事故が毎年のように発生しており、早急な対策が必要です。

そこで、長岡市は令和5年度に「長岡市地域安全克雪方針」を策定し、除雪作業中の事故防止や担い手確保など、除雪活動を取り巻く課題について取り組んでいます。



「長岡市地域安全克雪方針」は
こちらからダウンロードできます



取組方針

「オール長岡」で雪対策の「ベストミックス」を実践し、持続可能な除雪体制を!

地域住民をはじめ、除雪ボランティア、町内会、防災関連団体、民生委員、雪下ろし事業者、研究者、行政など、様々な関係者・関係団体の力を活用し、それぞれの立場で可能な取組を重ね、組み合わせることによって、『**自立的で安心・安全に住み続けられる雪国長岡の実現**』を目指します。

除雪作業時のルール (除雪作業を行う時の注意点)

- **2人以上**で作業。
やむをえず1人の場合は、
家族や隣近所に
声をかけて。
- 緊急連絡用に
携帯電話を持つ。
- 無理をせず、
こまめに休憩。
- 作業前には、
流雪溝や水路等の
危険箇所を確認。
- 屋根の雪下ろしなど
高所作業中は
足を滑らせないように注意。
命綱・ヘルメットも着用。
- はしごは**しっかり固定**し、
昇降時は特に注意。
- 軒下での作業は、
屋根からの**落雪に注意**。
- 家屋の周囲は
クッション代わりの雪を残し、
地面を露出させない
ようにする。
- 除雪機に詰まった雪の除去は、
エンジンを止めてから。



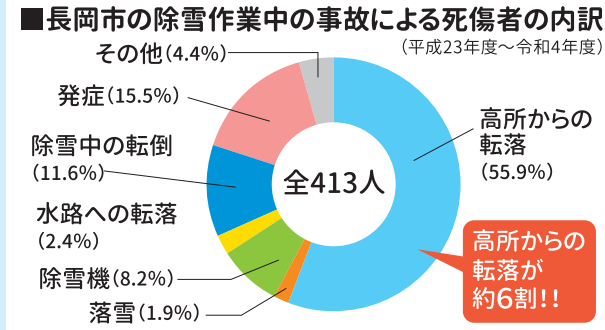


雪かき安全シンポジウム

日時:令和6年11月13日(水)
会場:さいわいプラザ4階大ホール

レポート

雪かきをもっと安全に、地域ぐるみで支える仕組みを考えようと、11月13日に長岡市主催の「雪かき安全シンポジウム」を開催しました。町内会長や民生委員、地域の共助組織や事業者、研究機関などの関係者が一堂に会して知見を学び合う初の試みで、オンライン視聴者も含め約150名が参加しました。



基調講演



「奥が深い雪かきの安全と安心」

長岡技術科学大学 上村 靖司 教授

長岡市は、特に積雪量が多い「特別豪雪地帯」に指定されています。雪害の被害者数は、人口あたりの割合で見ると地震や水害などよりもはるかに多く、県内では毎年のように転落事故などが起こっています。雪害は深刻な災害です。

自力で除雪できない要援護世帯が増える一方、雪下ろしを請け負える事業者は年々減っています。法律改正で安全基準が厳しくなり、命綱を固定する金具「アンカー」がない屋根の雪下ろしは引き受けられなくなりました。もはや安全対策は必須なのです。

除雪作業中の人身事故の3分の2は、屋根など高所からの転落が原因です。転落を防ぐには、アンカー、ロープ、安全帯の3点が必要です。体が屋根からはみ出さないようロープを適切な長さに調整すること、屋根の端に立たず、内側で作業することで事故は防げます。ハシゴの事故も多いです。最近開発された安全なハシゴへの買い替えも検討しましょう。雪国で生まれたこのハシゴはそのメーカーの標準モデルとなり、全国で活用されています。



3点そろって初めて命を守ることができる!

越後雪かき道場®による雪下ろし用安全帯の実技講習



ロープの長さを調節する結び方や、腰と太ももで体を支える安全帯「シートハーネス」の装着に挑戦。屋根の上で命綱を使って安全に雪下ろしをするための流れを学びました。

越後雪かき道場®

除雪救援と除雪安全を推進する任意団体。ボランティアの除雪技能研修などを行う。事務局はNPO中越防災フロンティア。

展示コーナー



屋根に安全に乗り移れるハシゴや命綱固定金具などを展示。

- 展示内容
- まっすぐ越えるハードルラダー(長谷川工業株式会社)
 - 命綱固定用アンカー金具(有限会社鈴木)
 - 指南書、安全帯セット、カルタ(越後雪かき道場®)
 - 「YUBO」有償ブースター(中越防災フロンティア)
 - 落雪、雪おろシグナルの動画紹介(雪氷防災研究センター)
 - 屋根雪の無人除雪技術研究の紹介(長岡鉄工業青年研究会)
 - 玄関先の無人除雪試行機の展示(ながおかメイカーズ・クラブ)
 - 雪かき安全アプリ(中越防災安全推進機構)

オール長岡! リレートーク



01

大積雪ほり隊 隊長 大谷 一夫 氏

地域の除雪作業を担う共助組織

高齢者や一人暮らしの方から「雪下ろしに困っている」という声を受け、町内で助け合おうと平成26年に立ち上げた。発足当時は隊員57名、利用世帯数は22世帯。現在は隊員29名、利用世帯数は26世帯。作業は有償で傷害保険にも加入。屋根の形状が分かる写真を入れた資料を作成し、事前に説明をする時に役立っている。一人暮らしの不安に寄り添いながら活動中。



02

かわぐち遊雪隊 2代目隊長 岡村 真人 氏

地域の除雪作業を担う共助組織

平成11年に立ち上げた。高齢者世帯、非課税世帯、障害者世帯を対象に、川口支所、社会福祉協議会とも連携して完全ボランティアで行う。サラリーマンが多く、土日に活動。30数名いたメンバーも今は20名弱に。実働は10名前後で、1日に7〜8軒を二手に分かれて回るなどしてきたが安全確保が悩み。気持ちは若い、高齢化で体が動かない。利用世帯にも理解を促して取り組みたい。



03

長岡建築協同組合 理事 藤川 隆 氏

除雪作業を請け負う事業者

雪下ろしは計画を立てて行うことが大切。自宅の建物の形状や構造、劣化状態を夏の間に把握し、アンカーも毎年点検。排雪場所や近隣の連絡先なども事業者同士で共有しよう。長岡に昔からある「雪樋」を使うと、雪を樋に流すことで屋根の端まで移動せずに安全に作業できる。



04

一般社団法人 長岡市緑地協会 理事長 鈴木 重吉 氏

除雪作業を請け負う事業者

当団体は平成2年に国土交通省の許可を得た造園業者で構成し、長岡市とも災害協定を結んでいる。街路樹や公園の木が倒れた場合などに出勤し、降雪時にも対応している。民間住宅の造園にも携わり、雪下ろしもしてきたが、安全管理基準の強化により、アンカーが設置されていないなど、安全確保ができない雪下ろしは引き受けられないのでご理解いただきたい。アンカーの周知が必要だ。



05

長岡市社会福祉協議会 事務局次長 丸山 和浩 氏

除雪ボランティアの募集・派遣など

民間の福祉団体として地域福祉活動を支援。雪害ボランティアセンターを設置するなど、雪かきに関する事業も行う。日常生活のちょっとした困りごとをお手伝いする支え合いの取り組み「ボランティア銀行」では、雪かきも有償で行い、喜ばれている。ボランティア協力会員募集中。



06

NPO法人 中越防災フロンティア 事務局長 田中 康雄 氏

有償ボランティア派遣システム

LINEを活用して、除雪を手伝ってほしい人と、手伝える人(ブースター)をマッチングするシステム「YUBO(ユーボ)」を運営。力を貸したい人を「ブースター」と呼び、有償ボランティアとして地区外からの登録も募る。地域自治組織と直接つながる事例もある。



07

防災科学技術研究所 雪氷防災研究センター長 中村 一樹 氏

雪氷防災の研究

近年は短時間に集中的に降る大雪が目立っており、新潟の湿った重たい雪はスタックによる立ち往生や、着雪による倒木、停電なども引き起こす。雪の深さだけでなく、雪の質も注目すべきだ。屋根からの落雪は、かなりの衝撃になる。雪下ろしの目安が分かるサイト「雪おろシグナル」も開設している。

